

# TAKAHIRO SEKI

# 関孝弘 チャリティー ピアノ コンサート

神奈川県立こども医療センター

患者・家族滞在施設建設のための

## 愛する子ども達のために

- モーツァルト：バター付きパン  
トルコ行進曲
- ショパン：ノクターン遺作  
別れのポロネーズ  
軍隊ポロネーズ
- ニノ・ロータ：ゴッドファーザー「愛のテーマ」
- プッチーニ：小さなワルツ  
小さなタンゴ
- マスカーニ：間奏曲  
トミーナ
- アルベニス：マラゲーニャ  
アストウリアス
- 他予定

※演奏曲目は変更になることがあります。

2005

# 6/11 土

18:00 開場 18:30 開演

## ミュージア川崎シンフォニーホール

¥3000【全席指定】 当日券 ¥3500

【チケット取り扱い】

045-822-7062 (滞在施設開設準備委員会事務局)

044-520-0200 (ミュージア川崎シンフォニーホール)

【お問い合わせ】

045-822-7062

044-955-1987

写真提供：湘毎日フォトサービス

■主催 神奈川県立こども医療センター患者・家族滞在施設開設準備委員会  
(こども医療センターアメニティー基金・よこはまファミリーハウス・NPO法人スマイルオブキッズ)

■協賛 特定非営利活動法人ファミリーハウス サプリワールドジャパン

■後援 神奈川県 横浜市 川崎市 川崎市教育委員会 神奈川新聞社 毎日新聞社横浜支局 tvk (テレビ神奈川)  
神奈川小児科医会 (株)徳間ジャパンコミュニケーションズ (株)コロムビアミュージックエンタテインメント  
(株)全音楽譜出版社 昭和音楽大学



関孝弘  
プロフィール

■1966年、第20回日本学生音楽コンクール・中学の部第2位 ■1969年、東京芸術大学付属音楽高校入学 ■1972年、東京芸術大学入学 ■1975年、安宅賞受賞 ■1976年、東京芸術大学大学院入学。第45回日本音楽コンクール第2位入賞 ■1979年、イタリアのプレーシャ国立音楽院に留学 ■1981年、同音楽院を首席・名誉賞と共に卒業。フィナーレ・リーグレ国際音楽コンクール第2位。セニガッリア国際音楽コンクール第4位。ベッリーニ国際音楽コンクール第3位。ザンボーニ国際音楽コンクール第1位 ■1982年、ラフマニノフ国際音楽コンクール第3位。エンナ国際音楽コンクール第3位。アーテルフォーラム国際フェスティバル（イタリア）に招待される。 ■1984年タレンティヌム国際フェスティバル（チェコ）に招待される。リンゴット国際フェスティバル（イタリア）に招待される ■1985年、ストレーザ市（イタリア）より賞を受ける ■1986年旧ソビエト連邦に演奏旅行。 ■1987年、ソニー音楽財団主催第3回パフォーマンス・トゥデイで日本デビュー

■1988年、ポーランド演奏旅行。フィナーレ・リーグレ国際音楽コンクールの審査員を毎年勤める。 ■1990年、台湾に演奏旅行。レニングラード・フィルと共演 ■1994年、モスクワ国立交響楽団と共演 ■1996年チマローザ「ピアノ・ソナタ全集」のCD2枚（世界初録音）をリリース、同「ピアノ・ソナタ全集」の楽譜を出版 ■1997年、ガルツピ「ピアノ・ソナタ集」の2枚をリリース、同「ピアノ・ソナタ集」の楽譜を出版 ■1998年、CD「知られざるショパン」をリリース、同ショパン楽譜「遺作集」出版 ■2000年、CD「レスピーギ：ピアノ曲集」をリリース、同曲集の楽譜を出版。ヴェニス室内合奏団と共演 ■2002年、2枚のCD「小さなイタリアの物語」「ニノ・ロータ、ピアノ作品集」をリリース。同曲集の楽譜を出版 ■2003年、2枚のCD「ピアノ名曲集」をリリース ■2004年9月、国立ワルシャワ・フィルと共演。

現在は東京芸術大学及び同付属高校で後進の育成にあたるほか国内はもとよりイタリアを中心にヨーロッパでの演奏活動を精力的に続けている。

## ◆ 関孝弘チャリティーピアノコンサートの趣旨 ◆

小児患者の家族が自宅から離れた病院で付き添う場合は、様々な問題を抱えることとなります。病院に近く、経済的に軽い負担で快適に滞在できる施設を入院のその日から利用できれば、患者さんと付き添いの家族の方々、双方にとって心強く、医療上重要なことと思われます。

私たちは、神奈川県立こども医療センターの敷地内または近隣にこのような滞在施設が開設されることを願っていますが、その実現には、多くの方々のご理解、ご支援が不可欠と考えております。

このたび、関孝弘氏のご協力により、チャリティーピアノコンサートを開催し、滞在施設の必要性を訴え、またその収益を建設資金の一部として役立てるつもりです。

神奈川県立こども医療センター患者・家族滞在施設開設準備委員会

## ◆ 私たちの望む滞在施設について ◆

神奈川県立こども医療センター所長 後藤 彰子

私たちが今望んでいる小児の宿泊滞在施設とは、神奈川県立こども医療センターに入院しているこどもさんのご家族のための宿泊施設です。こどもさんの慢性の病気は専門性が高く特別な医療機関が必要です。医療機関の近くにご家族が滞在できると、ご家族にとって便利なのはもちろんですが、入院しているこどもたちにとってもお母様方ご家族に近くで見守られることで不安が和らぎ、安心して治療が受けられます。そんなこどもとご家族の思いを実現するのが滞在施設です。この滞在施設は、病院の近くにあっても切り離れた独立した施設であることが大切です。このような施設は、ご家族同士の情報交換の場やご家族同士勇気づけられる場にもなるでしょう。長期間入院しているこどもたちの、外出や外泊先としても利用できるでしょう。設立後の運営は、ボランティアさんの力を借りて地域に支えられ、密着したものになればよいと考えています。

神奈川県立こども医療センター患者・家族滞在施設開設準備委員会とは、

- こども医療センターアメニティー基金……センターで治療される患者・家族に快適な医療環境を提供する目的で設立され、センターのゆかりの方々・支援者に支えられた基金です。
- よこはまファミリーハウス……高度医療を受診するため神奈川県下の医療機関に入院する患者・家族の皆さんに精神的・経済的に支援しているボランティア団体です。  
事務局046-841-1581
- NPO法人スマイルオブキッズ……難病の子どもとその家族、小児医療に関わる病院とそのスタッフ等を支援するために設立された団体です。  
事務局044-955-1987  
以上の3団体で運営されています。

会場案内

